





審査結果報告書

平成28年 9月 5日

主査	氏名	堤 明純	
副査	氏名	生地 新	
副査	氏名	岩満 優美	
副査	氏名	齋藤 有紀子	

1. 申請者氏名 : 保岡 啓子

2. 論文テーマ : Tracing six Japanese donor families' attitudes,
2002- 2016
(日本のドナー家族6例の追跡調査:2002-2016)

3. 論文審査結果 :

審査論文は、日本において臓器移植が開始され間もない時期に、申請者が、人臓器移植ドナーの遺族と良好な関係性を構築し、長期にわたって追跡調査を行った所見をまとめたものである。

遺族数は6例と少数ではあるが、調査時の脳死臓器提供数は19件であり、希少なデータである。あらかじめ定めた仕様により複数回のインタビューを行い、ドナー本人の移植に対する意思表示の存在は、移植直後のドナー家族の悲嘆軽減には寄与するものの、長期的には、移植を行った（同意した）ことの満足感には必ずしも結びつかないこと、周囲の無理解がドナー家族の心理的負担を増加させ移植を行った（同意した）ことを後悔させる要因となること、などを明らかにし、一般への死の準備教育や移植医療に関する啓発とともに、ドナーの家族の精神面のケア、ドナー家族としての体験や感情の表出を可能とする場の提供などを行うことで、移植医療に対する理解が進み、ドナー家族のケアと移植医療の進展が図られる可能性がある」と結論した。また、結果に影響を与える様々な社会的、個人的要因を考察し、リサーチとともに移植医療に向き合ううえでの今後の課題を明示した。

以上、日本において移植医療の理解を進めるうえで貴重な資料を提示した本論文を学位論文にふさわしい仕事と判断した。